

セセリチョウの仲間は、ホソバセセリの項でふれたように非常に動きが速く、ネットインできたとしても元気に暴れまわる習性があるため、その過程で背中部分の細毛がはがれおちて完全な標本にはしづらいチョウである。そんなわけで筆者のストックにセセリチョウ科の標本はほとんどなく、最近になって、加古川市周辺の蝶標本を誰でもがみられる形できちんとそろえようとの思いで、やっとイチモンジセセリ、チャバネセセリ、オオチャバネセセリ、キマダラセセリ、ホソバセセリを標本化し、公共施設で自由に閲覧できる状況までこぎつけている。

一方、加古川市周辺ではみられないコキマダラセセリなどの標本はいぜんないままだが、セセリチョウ科は敏捷な飛翔をみせるけれども、いったん止まれば多くの場合4枚の羽をジェット戦闘機を思わせる態勢でみごとに開いて見せてくれるので撮影の対象としては貴重な存在だ。

初めて気にいった撮影記録をとれたのは北海道富良野のラベンダー畑で、紫の花にコキマダラセセリのオレンジ色がとても映えて美しくみえた。

兵庫県では中北部、西部に局所的に分布し、産地の明るいススキ草原や湿地周辺の草原などが生息地だとされている（広畑正巳、近藤伸一共著、「兵庫県の蝶」2007、岩峰社）。今でもウスイロヒョウモンモドキが観察できる数少ない地域となっている兵庫県ハチ高原は、まさに本種の生息に適した草原が広がっており、2013年7月には、存分に新鮮個体を撮影記録できた。



本種は、九州と四国には分布していない。